



豚と人の関係

久保 康弘

先だって、数々の名作アニメを産み出してきた宮崎駿氏が長編アニメ製作からの引退を正式に発表した。筆者が一番好きな作品は「紅の豚」である。

「飛べない豚は、ただの豚だ」ハードボイルド系の格好に身を包んだ「豚」というか、デブというか、この作品の主人公のマルコ・バゴット、通称「ボルコ・ロッソ」（イタリア語で「紅の豚」）の決め台詞である。作品内の設定としては、イタリア空軍の大尉でエース・パイロット、しかし軍隊に嫌気がさし、自らに魔法をかけて豚の姿となり、賞金稼ぎの飛行機乗りとして幾多の空中海賊を撃退し、気ままに暮らしているというもの。

ヒトにとって、豚という生物種は身近な存在である。だが、イスラム教では身近であるがゆえに禁忌の対象になる。なぜ、イスラム教徒がブタを忌避するのだろうか？ 彼らの聖典であるコーランの一節には「豚はヒトがイノシシとネズミを合わせて作り出した汚れた動物なので食べてはいけない」という記述がある（実際は家畜として長年飼育された結果なのだが）。すると、更なる疑問が湧く。なぜ豚だけが汚れていると決めつけるのか？ これには定説がなく、さまざまな説話があるようだ。

巷間、一番説得力がある理由としてあがっているのが、旧約聖書説である。イスラム教はユダヤ教が基づく旧約聖書に大きな影響を受けている。その旧約聖書の中に「ヒヅメが分かれています反芻（はんすう）する動物（牛や羊など）しか食べてはいけない」という教えがある。バイオマス利活用の視点でみれば、一度、反芻胃の中の共生微生物による発酵作用で生産された低級脂肪酸や菌体タンパク（SCP: Single Cell Protein）をたべて効率よく消化吸収するから体躯も大きくなる。肉・内臓・骨・皮は勿論のこと、乳も有益である。一方、豚は一切反芻しない、沢山食べる割に消化効率も悪いので体躯も牛や羊ほどは大きくはならない。内臓や皮はソーセージやピッグスキンの工芸品などで利用できるけど、乳は利用できないのでダメということなのか。

また地理学的な視点でいえば、イスラム教が普及しているのは中東、北アフリカ、中央アジアなど、土地が乾燥した地域である。牧草は育っても穀物は育ちにくい環境である。そのような地域で暮らす人々にとっては、牧草を食べる牛や羊を増やして牧畜を営み、それらの家畜を処理することで糊口をしのぐ。豚は雑食性であるが、

ヒトの主食である穀物を好んで食べる。食べ物は貴重なもの、豚に与える余裕などない。だから豚はダメということなのだ。

食品衛生的な観点で見ると、カンピロバクター、リステリア、ほかの食中毒原因菌による汚染の可能性がある。豚肉はすぐに腐敗して、伝染病の原因になりやすい。さらに生肉の状態や加熱が行き届いていない状態で豚肉を食べると、豚自体が保有している豚ヘルペスウイルスやトキソプラズマ、E型肝炎などの人畜共通感染症にかかる恐れが大きい。

豚肉の赤身部分は、ヒトを固有宿主としている有鉤条虫の幼虫（有鉤囊虫：ゆうこうのうちゅう）の寄生部位であり、生肉のまま食べると感染する恐れがある。有鉤条虫に感染した場合、成虫が産卵した虫卵がヒトの小腸内で孵化し、身体各所に有鉤囊虫が寄生する人体有鉤囊虫と言う状態となることがある。有鉤囊虫は、眼球・脳などにも寄生することがあり、時に重篤な症状を呈することがある。特に脳に寄生した場合は、けいれんや麻痺など、脳腫瘍（のうしゅよう）に似た症状が起こり、放置すれば死に至ることがあるとされる。

冷蔵庫などない昔のこと、こうしたさまざまな理由があいまって豚肉を避ける教えができたのではないか。

ユニークな視点では、豚は貪欲でだらしない動物だからイスラム教徒には嫌われたという話がある。確かに、豚は貪欲に物をがつつ食べる。すぐに盛りがついて交尾し、無節操に子供をたくさん作る。ヒトになぞらえてみて、欲望丸出し（生命力が強いともいえるが。）の生活態度は、厳しい教えのイスラム教がもっとも忌み嫌うから、豚を食べると、豚のようにだらしない人間になってしまう。そこで、豚を禁止したのだという話がある。そういえば、同じ宮崎アニメ「千と千尋の神隠し」では、別世界に迷い込んだ主人公の両親が、神様の食べ物を食べてしまったために豚にされてしまうシーンがあった。でも、「紅の豚」のボルコ・ロッソは、非常にストイックだった。すべての豚が怠惰で無節操というわけじゃない。ブタは知能が高く、芸も覚えるし、自分の名前も認知する。清潔を好み、排泄場所を餌場や寝床から離れた決まった一か所に決める習性がある。「ブタもおだてりゃ木に登る」のだ。

